

PONOS Deloitte.

KUO
GROUP

トヨタモビリティ中京

TEAM TOM'S



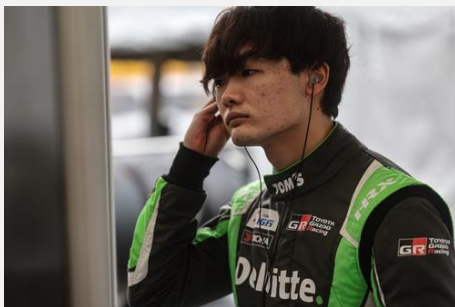
SUPER
FORMULA
LIGHTS

RACE REPORT

Rd.7,8,9 : オートポリス

天候：曇り・ドライ / 気温：16-16℃ / 路面温度：21-19℃

全18戦で戦われる2022年全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権は、前半戦の締めくりとなる第7、8、9戦を迎えた。会場は、九州の阿蘇外輪山にあるオートポリス。木曜日から練習走行が開始されて、金曜日の練習走行の後、夕刻16時30分から、30分間の予選が行われた。曇り空の下、セッションの開始と共に、トムスの4台がコースインして、まずは1セット目のタイヤで1分37秒台のタイムを出してピットイン。2セット目のタイヤをセットして、目標の1分36秒台へのアタックを開始した。コース特性とタイヤに対して攻撃性の高い路面によって、ベストコンディションは1周のみ。また、気温/路面温度共に低くなり、タイヤのウォームアップと内圧を高める作業も相まって、若手ドライバーたちにとって難しい予選となった。野中誠太と平良 響が36秒台に突入することに成功した。しかし、小高一斗と古谷悠河はわずかに及ばず予選を終えてしまった。

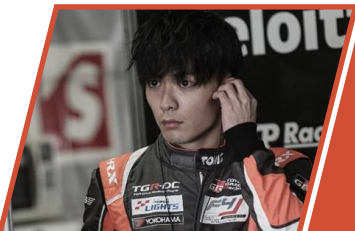


- 今回、練習走行の段階からホンダの育成ドライバー達の速さが際立っていた。その牙城を崩すべく、トムスの4台が積極的なアタックを展開した。練習走行の段階から一歩前進してトップとの差を確実に詰め、ポールポジションの可能性も見えてきていた。
- 練習走行でも唯一、36秒台のタイムを叩き出している野中が予選でも最初に36秒台をマークしてみせた。ベストタイムで3番手、セカンドベストは7番手。
- 続いて平良も36秒台へ進出したが、この周に第二ヘアピンでミスしており、コンマ数秒ロスしていた。ミスがなければ、フロントロー、ポールポジションを獲得できていたかもしれない。5番手と4番手のグリッドから決勝をスタートする。
- 現在ポイントランキングトップの小高は、トムス内でもトップを獲れないという苦しい週末を迎えていた。36秒台に0.15秒及ばず6番手に留まった。セカンドベストタイムも6番手。
- 前戦、鈴鹿で連続表彰台に立つ活躍を見せた古谷だったが、今回はタイムが伸びず苦しい展開に悩み、アタックラップでもミス。小高と共に37秒台に留まり、7番手と5番手。エンジン交換をしたため、第7戦は5グリッド降格で決勝をスタートする。
- 第9戦のグリッドは、第7戦の結果で決定される。



Driver	Car No.	Qualifying for 7	Qualifying for 8
野中 誠太	35	P3 1'36.879	P7 1'37.626
古谷 悠河	36	P7 1'37.230	P5 1'37.534
小高 一斗	37	P6 1'37.153	P6 1'37.576
平良 響	38	P5 1'36.955	P4 1'37.448

天候：曇り・ドライ / 気温：16-16℃ / 路面温度：21-19℃



野中 誠太

35 / ドライバー

オートポリスは、練習走行の時からワンセットのタイヤでは一発しかタイムが出ない。アタックした次の周は大きくタイムが落ちてしまう。どうしてなのだろうと思うほど、タイムダウンしてしまいます。マシンのバランスが悪いわけではないので、ドライバーの問題であり責任ですね。しかし、トムスの中で一番前になったのは初めてなので、その点は良かったです。平良選手と比べるとセクター1でコンマ3秒くらい遅いので、そこが改善できていたなら、ポールポジションだって獲れたかもしれない。スタート練習はデータの的に良いので、第7戦では前の2台をパスできるように集中します。



古谷 悠河

36 / ドライバー

練習走行の最後でエンジンが壊れてしまい、セッティングを詰め切れないまま、予選を迎えることになりました。アタックのラップでは、第2ヘアピンでブレーキをロックさせてしまい大きくタイムロス。その他にも各セクションでコンマ数秒ロスしているので、セッティングも含めて、今回はまとめ切れていないという感じです。1セット目から2セット目で改善されたところはあったのですが、それでも足りなかった。ブレーキングのミスがなければ、36秒台もあったかもしれませんが、正確にどれだけミスしたかわからないですね。路面温度が低くてウォームアップが重要でした。セカンドベストタイムは、タイヤのパフォーマンスなりに走って出たタイムですね。



小高 一斗

37 / ドライバー

練習の段階から思うようなマシンのセッティングに合わせ込めなくて、悩んで、悩んでいますね。結構大きく変えても変化を感じる事ができないので、タイムがアップしない状況がずっと続いてしまっています。タイヤをうまく使えていない。もちろんユーズドからニューに履き替えれば、タイムアップしますが、その上がり幅が少なすぎる。富士などでは悪いなりになんとかタイムを出せてきたのですが、今回のオートポリスでは、セッティングを変えても走ってみたら、<ああ、ここじゃない>という感じで、全くうまく進める事ができないという結果がこうです。



平良 響

38 / ドライバー

セクター1と2は良いのに、第2ヘアピンのミスでリズムが狂って、第3セクターでライバルに差をつけられてしまっている。マシンは良いのに、これは本当にドライバー、自分自身の問題でダメです。ミスしてコンマ1秒、コンマ2秒をロスしてしまう。他でもロスすれば、雲泥の差としてタイムに反映されてしまいます。その差は大きいですね。1周をパーフェクトにまとめられない、まとめきれなかったけど、マシンもタイヤも完全な状況だった。ポールを獲得するのに自分がダメでした。ロングランは良いので、スタートを決めて前に出て、少なくとも表彰台に立つ。目指せ表彰台です。



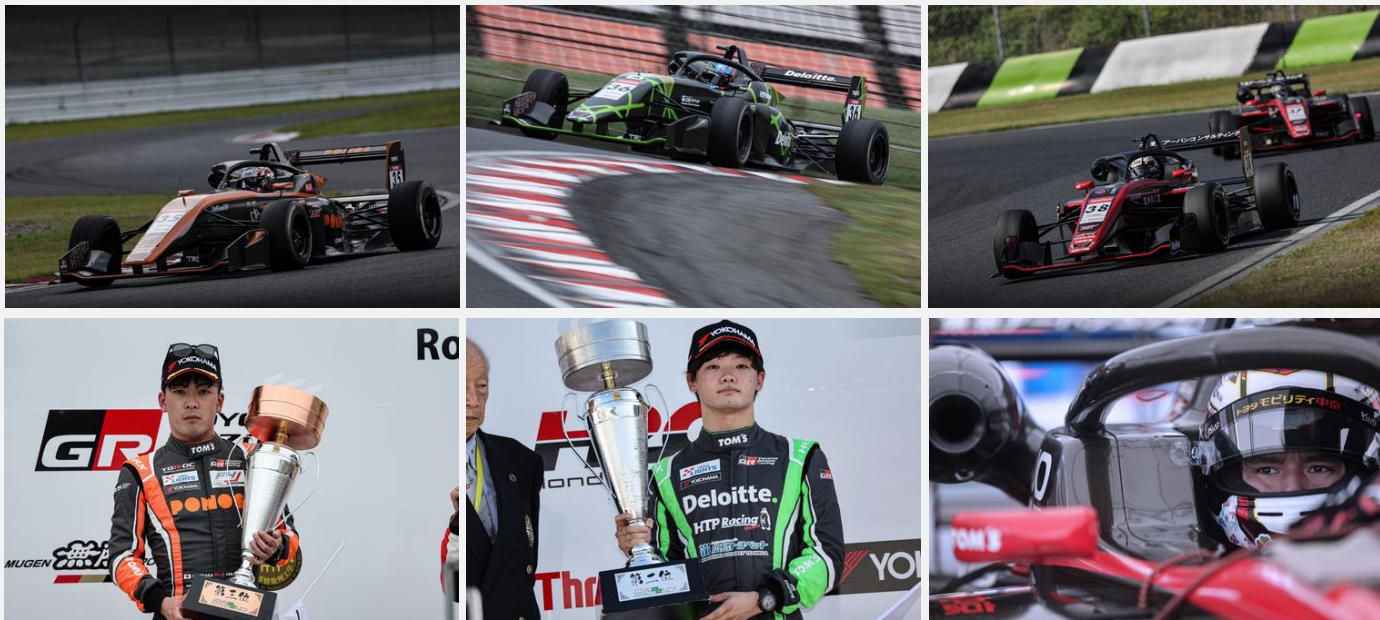
山田 淳

監督

キャラクターが違うオートポリスは難しいですね。展開として練習走行の段階からホンダさんの育成ドライバーの2人が主導権を握っていて、それを追うことになっていました。野中や平良は、かなり肉薄してきたのですが、ミスもあり、1周をきちんとまとめきれない結果、ポールポジションを獲得できませんでした。本来なら小高は、チームの皆を引っ張って欲しいのですが、今回苦しい状況ですね。鈴鹿で素晴らしい成績を残した古谷は、頑張ってくれていますが、ここでは経験不足が結果として出てしまっています。各車、表彰台は十分狙えるスタートポジションですし、スタート次第では勝つことだって不可能ではないと信じています。

天候：曇り・ドライ・曇り時々晴れ・ドライ・晴・ドライ / 気温：20-22℃・25-23℃・18-21℃ / 路面温度：26-27℃・36-31℃ 26-29℃

予選が金曜日に行われたため、決勝レースは土曜日に2戦（第7、8戦）そして日曜日に第9戦が行われた。予選と同じように決勝でもホンダ育成ドライバーに先行される苦しい展開となってしまった。その状況下でも野中誠太が第7戦ではスタートポジションを守って3位表彰台を獲得した。他のドライバーたちも順位アップしてフィニッシュすることに成功した。第8戦では平良 響が得意のスタートで一気に順位アップするも、追突されてしまい1周もできずにリタイヤという残念な結果に終わった。アクシデントがなければトップ争いは確実だった。他のドライバーの脱落もあり、第8戦では古谷悠河が自己最高位の2位でフィニッシュして見せた。野中は、3戦全てで3位となった。小高一斗は、3戦共に6位と振るわず、不本意な結果となってしまった。今大会で全18戦のシリーズ前半戦が終了した。

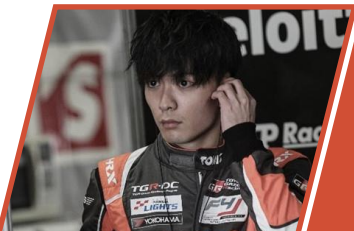


- 第7戦では、スタートシグナルが故障してしまって、フォーメーションラップを再度行い、決勝の周回数が1周減算されて13周となった。
- 古谷は、エンジン交換をしたために第7戦は11番手グリッドからスタートしている。平良は、スタートで1ポジションアップして4位フィニッシュを果たしている。
- 第8戦では、平良が再び得意のスタートで順位を一気に2つアップして2位へ。しかし、第2ヘアピン直前のブレーキングで背後にいた木村偉織選手に追突されてコースオフ、クラッシュして、そこでレースを終えてしまった。2位フィニッシュした木村選手は、接触に対するペナルティとして結果に30秒加算され、これによって古谷、野中、小高が一つずつ順位を上げた。
- 第7戦の結果によってスタートポジションが決定された第9戦は、野中がポジションをキープし3位。平良はスタートに失敗し、ポジションを落として5位。古谷は8番スタートから7位。小高は6位フィニッシュとなった。
- 前半戦を終了して、小高がランキング2位。野中4位、平良が5位。そして、古谷が6位に着けている。



Driver	Car No.	Rd.7 / Fastest Lap	Rd.8 / Fastest Lap	Rd.9 / Fastest Lap
野中 誠太	35	P3 1'38.708	P3 1'39.824	P3 1'39.786
古谷 悠河	36	P8 1'39.597	P2 1'39.505	P7 1'40.203
小高 一斗	37	P6 1'39.348	P6 1'39.946	P6 1'39.797
平良 響	38	P4 1'39.030	DNF	P5 1'39.777

天候：曇り・ドライ・曇り時々晴れ・ドライ・晴・ドライ / 気温：20-22℃・25-23℃・18-21℃ / 路面温度：26-27℃・36-31℃ 26-29℃



野中 誠太

35 / ドライバー

結果として3戦連続3位という結果で終わられたオートポリスでしたが、ホンダ育成ドライバーの二人と明らかに差がありました。その差を後半戦で縮めて勝てるような状況に持ち込まないとダメですね。第9戦では前の太田選手にレース中盤から差を詰めて行けたのですが、他のレースでも同様に、スタート直後のペースが上がらないという課題があるのは分かっています。レースの前半でプッシュしきれていないのは改善しなければならないと思っています。後半戦は、チームと共にもっとパフォーマンスを上げてもっと勝ちたいと思います。



古谷 悠河

36 / ドライバー

今シーズン全てのイベントが3戦行われる中、規定のタイヤセット数が少なくなっていることで、コンディションが異なる状況でセッティングを変えながら、ユーズドのタイヤで対処しなければならぬ。経験が少ない中で戦う難しさを痛感します。オートポリスは他のフォーミュラシリーズやスーパー耐久で走っていて、ポールポジションも獲っているのでもうまく走れると思って臨んだのですが、SFLは別物というか、難しさが違いますね。9戦を終えて、ウエットのレースだとペースは良いのですが、ドライだとまだトップグループと差があるので、これからも頑張らないといけませんね。



小高 一斗

37 / ドライバー

練習の走り出しから調子が悪くて、それが予選、決勝まで引きずってしまい、全然良くならなかったという週末でした。いつもだと練習走行がだめでも予選で改善できたり、予選がダメでも決勝で挽回したりしてきたのですが、今回は何をやってもダメでした。金曜日の段階でデータを見て、悪い点を探って改善できなかった。そのまま予選に突入したのが、今回の低迷の原因です。予選が良ければ、他のライバルより決勝のペースが少し悪くてもポジションを守れるのですが、今回のように後方からだと苦しい展開にしかならないですね。まだ前半戦が終わったところですし、有効ポイント制ということもあり、引き続きチャンピオンを目指して頑張ります。



平良 響

38 / ドライバー

本当に残念なのは第8戦。得意のスタートが決まって2位に上がったのに、追突されて1周もできずに終わってしまった。あのままなら少なくとも2位になれたので、悔しさと残念な気持ちでいっぱいでした。今回は一度も表彰台に立つことができずに終わってしまいました。前の車について、差を詰めるのですが、ダウンフォースが抜けて、グリップが落ちてしまって、ペースが落ちてしまったり、タイヤの温度が上がってしまったり、すごく大変でした。ドライビングで何とかしなければならぬのですが、まだまだダメですね。後半戦でそれができるようにしたいです。まだシーズンの半分ですから、これからも頑張ります。



山田 淳

監督

トムスチームにとって、オートポリスにはこれまで悪いイメージはないのですが、4人のドライバーのうち、今回は2人が表彰台に立ったのが精一杯という結果になってしまいました。4台異なるセッティングを試したりしたのですが、あまり違いが出ず、元に戻したりしています。今シーズンは、参加ドライバーの実力が拮抗している状況ですね。その状況でマシンのベースセッティングがうまくいっているところが前に出ているようですから、我がチームも後半戦では頑張っ、4台がレベルアップするように努力します。これからも厳しい戦いは続きます。